

子ども子育て会議 要録(令和6年度 第1回 令和6年6月26日)

区分	内容
1. 開会あいさつ	
子ども健康部長より開会のあいさつ。	
2. 自己紹介	
各委員自己紹介	
3. 議題	
(1) 役員選出	
事務局	委員長及び副委員長について、委員より立候補なし。 事務局案を提案する。
委員各位	承認。
事務局	委員長が決定したため、以降の議事の進行を委員長に。
委員長	委員長就任のあいさつ
(2) 子ども・子育て支援事業計画(第2期)令和5年度実施状況について(資料★)	
事務局	子ども・子育て支援事業の進捗状況については、事前に資料を配布していたが、新しい委員が半数おり、内容が多いため、改めて目を通してもらい、次回の会議で議論する方法を提案したい。
委員長	内容を把握したうえで次回審議するということでもいいか。 事務局へ評価の基準を教えてほしい。
事務局	評価の基準を説明。 (会議中に資料配布)
(3) 小郡市こども家庭支援センターの目指すもの	
事務局	「小郡市こども家庭支援センターが目指していること」を説明 (こども家庭支援センターが求められる社会の背景)
事務局	「小郡市こども家庭支援センターについて」を説明 (こども家庭支援センターの取組)
委員長	委員より質問はないか
委員	就園しておらずどこにもつながっていないこどもへの対応」として、あすてらす内に新たにこども広場を設置するとのことだが、プレイルームに加えて新しい遊び場できる認識でいいか。 自分自身もプレイルームを利用したことがあり、保護者とこどもがのびのび遊べる場と感じている。一方で、プレイルームにはスタッフがおらず、その場で子育てに関して相談できる環境ではない。 新しい広場には、こどもの困り感に気づいたり、気軽に相談に乗ってくれたりする保育士等のスタッフの配置があるのか。
事務局	こども広場は、プレイルームに加えて設置する。 こども広場へのスタッフの配置は想定していないが、こども家庭支援センターの事務室は、こども広場が見渡せる位置に設置しているので、日常的な利用を見守りながら接点をつくり、在籍している

	保育士や保健師などの相談につなげていきたい。
委員	児童虐待の相談はどこから入ってくるのか。 相談後、どのように対応しているのか。
事務局	小・中学校、保育所・幼稚園など、こどもが所属している機関からの相談が多い。 相談を受けた後は、所属への訪問や聞き取りなどで調査を行って情報を整理し、リスクが想定される場合は、要保護児童対策地域協議会の関係機関と連携しながら、対応を検討していく。
委員	虐待を受けていても、こども自身が自分で言えない、周りが気づかないことがあると思う。 どのように虐待を発見しやすい環境をつくっていくのか。
委員長	虐待のケースは多様。 実際にこどもを預かっている幼稚園などではどう対応しているか。
委員	現在の幼稚園で虐待事案と遭遇していないが、以前に勤めていた保育園では、こどもにあざがあったことがあり、児童相談所に通報して、引き取ってもらったことがあった。 園では、毎朝こども様子を把握し、虐待がないか確認している。
委員長	虐待に気づいたらすぐに連絡するところが明確になっていると助かる。現状はどうか。
事務局	現状、虐待に遭遇した場合どうするか、それ以前に、虐待を察知するためにどのような点に意識すればいいか、周知や学習機会の提供が不十分だと認識している。 今年度は、要保護児童対策地域協議会の研修会において、「虐待の発見とその後の対応」をテーマにしている。各所属機関それぞれが虐待発見のフィルターだということを意識してもらえよう、丁寧に取り組んでいきたい。
委員	幼稚園・保育園など所属があるこどもはいいが、所属がないこども達や家庭への関わりが課題ではないか。
事務局	現段階では、母子保健による乳幼児健診がベースとなっている。 今後、こども家庭支援センターで、所属のないこどもへの対応の充実を検討していく。
委員長	具体的な事業は検討しているのか。
事務局	小都市の乳幼児健診の受診率は90%以上で、ポピュレーションは機能していると考えている。ただし、小都市は、3歳を過ぎた児童の転入が多い特徴があり、その後に所属がなかったり、市外の幼稚園・保育園に通園されると把握ができない。 こども家庭支援センターの重点項目として、子育て支援センターの機能充実を挙げている。身近な地域にある子育て支援センタ

	<p>一、そしてあすてらすを誰もが相談しやすい場所とすることが必要だと考えている。</p> <p>加えて、地域資源の発掘を推進したい。民生委員・児童委員をはじめ、地域で子どもたちに関わる住民のみなさんとの協力体制を築き、対応力を強化していきたい。</p>
委員	<p>計画を策定していくにあたっては、今の保護者世代がどのような教育を受けてきたか振り返ることも必要だと思う。</p> <p>また、これまでの計画の中身を見ると、子どもたちをどう育てていくかという家庭と保護者の内容が中心になっていて、子どもの意思表示など、子ども自身の内容に及んでいないように感じる。</p> <p>そして、発達障害児童への支援に関して、発達障害という言葉は広義にわたる。私自身、保育所や幼稚園を巡回しているが、子どもの困り感は発達障害によるものだけではなく、ネグレクトなどの家庭環境などによってその状態が引き起こされていることもある。脳に明らかな障害があるのに、発達障害に見えることもある。</p> <p>ここでの発達障害は、障がい起因する子どもの育てにくさだと広くとらえてもらえるとありがたい。</p> <p>一方で、障がいがなくても、意思をはっきりと表明する子どもが育てにくいとされることもあるので、様々な視点に基づいて対応していくことが必要だと思う。</p>
事務局	<p>子どもの発達障害は広くとらえていて、あらゆる子どもたちや保護者の困り感に対して支援が行き届くよう、子ども家庭支援センターが関わっていきたくと考えている。</p>
委員	<p>発達機能に関する障がいをいとらえる。</p> <p>地域に多様な支援サービスが受けられるようになってきた。医療機関や療育機関だけでなく、様々な機会や場があることを伝えていくことも必要だと思う。</p>
委員長	<p>子育てに関する情報発信に関してはどうか。</p>
委員	<p>私は娘が小学生に上がるときに小郡に転入してきた。</p> <p>もともと福岡市に住んでいたが、小郡市では子育てをしながら孤立することが多かった。</p> <p>福岡市では、身近なところに公民館があり、子どもを連れて集まる機会が多かった。私自身、そういった場があることが届いていなかった。</p>
委員	<p>私は3人の子どもを育てている、コロナ禍までは、自由に子育て支援センターを利用して子育て中の仲間とコミュニケーションがとれていたが、コロナ禍によって利用が予約制になって機会が減った。保護者が孤独になってしまうと子どもに影響が出てしまう。</p> <p>私もプレイルームもよく使っていたが、存在を知らない人も多い。誰でもが使えるよう情報を届けることで、コミュニケーションの機</p>

	<p>会ができ、保護者の孤独が和らぐのではないかと思う。</p>
事務局	<p>情報発信については課題だと認識しており、委員の知恵をいただきながら取り組んでいきたい。</p>
委員	<p>健診から支援の入り口を作っていくとのことだが、保育士の質の向上が求められていると思う。</p> <p>健診は一部でしかなく、保育所現場では課題を抱える子どもと日常的に関わっており、大変さがあると思う。</p> <p>そういった子どもたちに対しては、園長をはじめどのように関わっているのか。また、若い職員も多い中で、保育や保護者との関わり方など、どのように育成に取り組んでいるのか。</p>
委員	<p>私の幼稚園では、職員と園長が気軽に接することができるような環境づくりをしている。</p> <p>保育の質の向上にあたっては、月に1クラス決めて、園長や職員が保育の見学をし、よかったところや課題などを共有し、高め合っている。</p> <p>また、保育をしていく中で気になる子に関しては、ピックアップした後、担任だけではなく、園長をはじめ全体で共有し、子どもや保護者の対応を行っている。</p>
事務局	<p>気になる子どもの支援の一環として、保育所・幼稚園を巡回する巡回訪問相談支援事業を行っている。</p> <p>専門の相談員が園を訪問し、気になる子どもに関する評価を行い、子どもとの接し方や保育の仕方に関する助言を行っている。</p> <p>本来は、園からの対象児を選んでもらい、その子に対する支援をしていくが、別に気になる子どもがおり、その子に関して調査を進めると、ネグレクトが疑われる家庭であることがわかった。</p> <p>このように、多面的に子どもたちの様子を伺っていく必要があると感じている。</p>
委員	<p>私の子どもは市外の保育園に通っている。そこは、ひとりひとりの保育士が、子どもの行動だけでなく、その背景まで配慮してくれることが理由で選んだ。</p> <p>保護者対応も丁寧で、子どもの困りごとに対して、一緒に取り組んでいこうという姿勢が感じられる。そういう環境がない場合、行政の支援ではなく、心療内科などにつながりやすい。</p> <p>医療機関では診断名がつけられ、その子の将来に影響を与えることもある。保育所や幼稚園などが、子どもの困ったと一緒に関わられる環境づくりを私も一緒に考えていきたいと思っている。</p>
委員	<p>巡回訪問相談支援事業に関わっている。今の事業では、保育士の困り感を基に相談支援を行っている。保育士や園の特徴、子ども達の特徴に応じて助言をしている。</p> <p>その中で、保育士は保護者との関係づくりの面に配慮して、こど</p>

	<p>もの特性を容易に打ち明けられないなど、多大なストレスも抱えている。保育士の処遇の改善や負担の軽減が求められると思う。それでも小郡市では少しずつ環境がよくなっていると感じている。</p>
委員	<p>私はバレエ教室を運営している。今のこどもたちは気になる行動が多い。しかし、私たちスタッフがそのことを保護者になかなか言えないような社会になっている。</p> <p>私自身も子育てをしながら、孤独を感じたので、自ら育児サークルを作った。今は以前より環境は恵まれていると思うが、それでもそういった場に出てこれない保護者もいる。そういった人たちのへの支援も必要ではないか。</p>
委員	<p>発達相談は市外の機関でも対応してくれるのか教えてほしい。</p> <p>以前は、障がい福祉の事業所に勤めていて、乳幼児健診などでの発達検査に関わっていた。その中で、知っている相談員がいるならと、検査等をためらう人がいた。自分自身も子育てをしていると気持ちがわかるので、市外への相談はできるものなのか。</p>
事務局	<p>小郡市の委託事業では、市民の方を対象としている。</p> <p>ただし、相談に関して、市外も含めて希望がある場合は、それに応じて対応ができることがあると思う。</p>
事務局	<p>保育士の質の向上についてお答えしたい。</p> <p>小郡市でもこどもひとりひとりを大切に、保護者との関係を含め、まるごとこどもを受け止める保育を目指している。</p> <p>保育士向けの研修を年3回。園長対象の研修を年3回。</p> <p>毎月の保育所園長会で情報共有を行っている。</p> <p>処遇の改善に関しては、国・県・市により平成24年からこれまで3段階での処遇改善に努めている。</p> <p>保育士の不足に関しては、全国的な課題であり、なかなか改善しない。小郡市でも保育士の確保は難しいが、資格がなくても保育を補う保育補助者の募集を行っている。</p>
(4) 第3期計画の作成について	
事務局	「第3期計画の作成について」説明
委員	<p>この会の目的は計画策定になるのか。</p> <p>事務局はどこが務めるのか。</p>
事務局	<p>計画策定が主になるが、その中で子ども子育てに関する意見交換も行っていく。</p> <p>事務局は子ども・健康部が務める。</p>
委員	<p>学校教育も大いに関係する内容だと思うので、関わってほしい。</p> <p>また、これまでの計画の内容には、こどもたち自身が関わられるものが含まれていない。こども基本法やこども大綱には、こどもがアクセスできるものが求められるが、そういった内容も含まれるの</p>

	か。
事務局	はい。
4. 閉会あいさつ	
委員長	あいさつ